

古河歴史見聞録

星空を見るひとびと 時空のゆがみを知るための天体観測

空から降ってくるもの

ひと昔前の地方新聞を見ていたら「空から? オタマジャクシ」という見出しに目がとまりました。石川県各地にオタマジャクシが降ったという記事です。このように天から降ってくるものは、雨だけではなく、天平14(742)年にはご飯、文安元(1444)年には大豆・小豆が各地で降ったという。最近では、プロ野球の試合中にレフトのポジションに魚が…なんてことも。

天体の異変と相場を記録する
 さて、空を眺めるわたしたちの心持ちとは、いったいいかなるものなのでしょう。たとえば古河の商家に伝わる記

天体の異変と相場を記録する
 さて、空を眺めるわたしたちの心持ちとは、いったいいかなるものなのでしょう。たとえば古河の商家に伝わる記

録には、寛文2(1662)年10月11月に、地面までも赤く染めた星が出たとある。幕府からはこれを「あふきほし」と呼ぶようにと触が出て、この年の米価が高騰したのだと。

さらにはこの星はその後4年間も現れ、そのうちにこの星の光で、月までもが見えなくなつたというのです。また同8年には「鐘星」とやらが現れて、木・竹・ヨシが高騰。正徳4(1714)年は「光り物」、このときの銭相場についても記している。そこには、これらの星の登場とともに訪れる生活の不安を読み取ることができそうです。

天体観測をし吉凶を占う

お日さまが沈めば一日が終わり、月の満ち欠けは日付を知らせてくれる。太陽と月は、一日の時間の流れを規定し、一年間の暦を作る基準となっている。また、アテボシといって、星が方位をさだめる目印にもなっている。いわば、天体は時間や空間そのものと

いえましよう。わたしたちはそんな空に異変を感じると、時空がゆがむことを恐れた。それが、天体によせる関心を高めたのではないのでしょうか。

また、天空に見える異変は、気象の異変にも通じる。農業や漁業は自然環境を相手にしているため、異常気象に左右され、ともに収穫の豊凶に影響がでてしまう。それにもない相場が変動し、商人も一喜一憂する。すなわち、天体の異変は、人々の暮らしの吉凶を占う予兆ともいえたのでしよう。



▲左上：あふきほし、右上：鐘星、下：光り物

昼間でも星を見る

遠く抜けた青空を映し出したその深井戸の水底に、昼間でも星が浮かぶ。全国にはそんな「星見の井戸」と呼ばれる井戸が各地にあったと伝えられている。

正岡子規の「井戸掘りの星や見るらん秋の空」という俳句には、地下深く掘れば、その底に天上の星が見えるのではないかとという、井戸掘り職人たちの期待感をうかがい知ることが出来ます。

そんな昼間から星といえば、古民家の屋根裏に潜り込み、梁(はり)頭をぶつけたときぐらいいしか、わたくしは見えておりませんが。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

【児童書/読み物】 ぼくのジウな字

春間美幸 作
 無理やり書道教室に行かされた鷹野龍彦は、大きな筆を背負ったおばあさん先生と出会う。先生が龍彦の右手に大きな筆で「字由」と書くと、メモにも黒板にも、龍彦の書いたおぼえのない字があらわれるようになって…。

出版社…講談社

【絵本】 さとうくんとすずきくん

エヌケイ 作
 山口けい子 絵
 日本人の名字、佐藤と鈴木はどっちが多い? 2人の男の子の言い合いからどんどん話が広がって、最後にはなぜかあんな人たちまで出てきて…! どこかシュールで、思わずクスッと笑える絵本。

出版社…文芸社

図書館の本棚から

【一般書/絵画】

黒板アート甲子園作品集

全国の高校生たちが学校の「黒板」をキャンパスに描く黒板アート甲子園の作品集。2016年度~2018年度の各賞の受賞作や応募作を掲載。黒板アートのあゆみ、描き方、参加高校一覧等も収録。

出版社…日東書院本社



【一般書/小説】

帝都探偵大戦

芦辺拓 著

帝都東京。犯罪者たちとあの名探偵たちが繰り広げる死闘を、江戸、第二次世界大戦前、そして戦後と3つの時代を通して描く。「名探偵名鑑」付き。『ミステリーズ!』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

出版社…東京創元社



三和図書館



提供：三和資料館

昭和33年5月に開校した三和中学校の様子です。平成元年に東山田に移転したことで校舎は解体されました。その跡地には、三和健康ふれあいスポーツセンターと燦SUN館が建てられています。【募集】このコーナーに掲載する昔の総和地区の写真を探しています。お持ちの人は秘書広報課までご連絡ください。☎秘書広報課Tel92-3111

古河 今昔物語 Time Travel Photograph

